

生産関連遺物の分布



鍛冶関連遺物(●は鞆羽口、他は鉄滓)



玉類(●は未成品)



萩前・一本木遺跡出土土器

萩前・一本木遺跡からは玉類の未成品、鉄滓、鞆羽口等の生産関連遺物が出土しており、玉作、鍛冶といった様々な生産活動が行われていたと考えられます。既往の発掘調査では工房跡は確認されていませんが、生産関連遺物の分布状況を見ると、これらが居館内およびその付近で多く出土しており、居館内あるいはその周辺に工房域が存在したと考えられます。

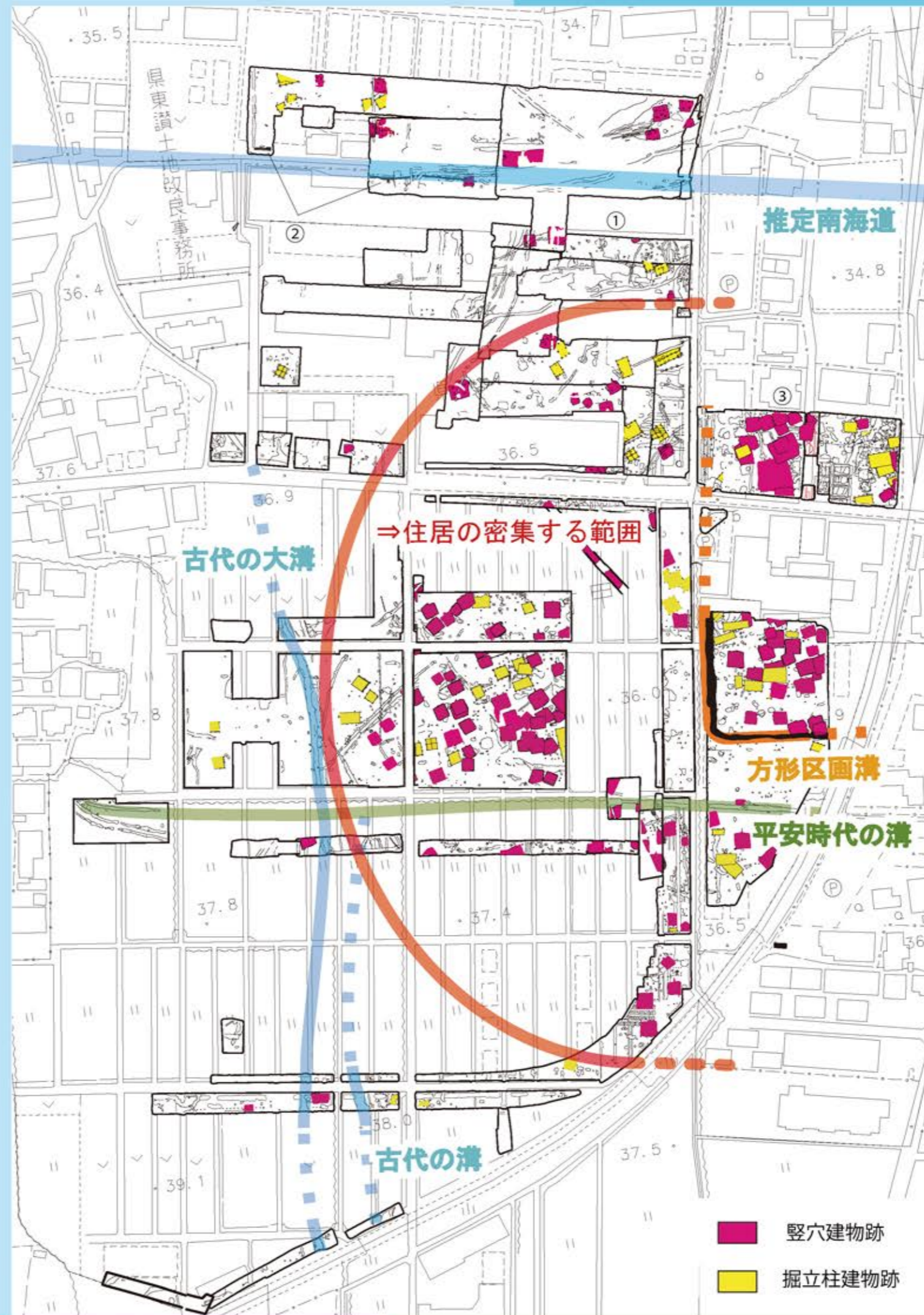
高松平野における古墳時代の大集落 2

萩前・一本木遺跡のあらまし

萩前・一本木遺跡は高松市仏生山町に位置する古墳時代中期～古代を中心とした集落遺跡です。みんなの病院建設等に伴い、平成23年～平成30年の8年間をかけて約31,870㎡を発掘調査しました。

発掘調査の結果、竪穴建物160棟、掘立柱建物71棟、溝、土坑といった多くの遺構を確認しました。竪穴建物跡や掘立柱建物跡は発掘調査地の中央に集中しており、この範囲が集落の中心部であったと考えられます。集落の中心部では、建物群を区画する方形の区画溝が発見されています。このような区画溝は首長居館に伴うものと評価されており、今後、区画内で首長の住んだ建物が見つかる可能性があります。各遺構からは土師器、須恵器、鉄器、石製品等の生活用具のほか、身分の高い人の装飾品である耳環、鉄滓、玉類の未成品といった生産関連遺物も発見されています。

また、発掘調査地の北側には古代の官道である南海道の推定地が存在します。この付近からは7世紀後半ごろの溝が発見されており、南海道の方向と一致することから南海道の側溝であった可能性があります。



① 耳環の出土

発掘調査地北側に位置するSX50から耳環一対が出土しました。耳環は古墳の副葬品として発見されることがあるもので、古墳に埋葬されるような身分の高い人がこの遺跡で暮らしていたと考えられます。



② 南海道の側溝?

発掘調査地北側には古代の官道である南海道の推定地が存在します。この付近からは南海道と同じ方向に伸びる溝が発見されています。東かがわ市坪井遺跡、丸亀市岸の上遺跡といった香川県内の南海道推定地に位置する遺跡でも同様の溝状遺構が発見されており、出土遺物の年代から県内では7世紀後半以降に南海道が敷設されたと考えられています。



③ 竪穴建物跡

萩前・一本木遺跡では数多くの竪穴建物が発見されています。方形区画内外で竪穴建物の規模を比較すると、区画内では区画外に比べて規模が大きいものがあります。今後、建物の構造、出土遺物等を総合的に検討し、建物の用途について明らかにする必要があります。